

五色百人一首

(水辺 20首)

・なんしゅおほえられるかな?

<p>いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に 匂ひぬるかな</p> 	<p>藤原基俊 契りおきし させもが露を 命じて あはれ今年の 秋もいぬめり</p> 	<p>菅家 この度は ぬきも 取りあへず 手向山 紅葉の錦 神のまにまに</p> 	<p>道因法師 思ひ念ひ さても命はある ものを 憂き心たへぬは 涙なりけり</p> 	<p>王生忠孝 有明のつれなく 見えし 別れより 眺ばかり 憂きものはなし</p> 	<p>猿丸大夫 奥山に紅葉 踏み分け 鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき</p> 	<p>坂上是則 朝ほらけ 有明の月と 見るまでに 吉野の里に 降れる白雪</p> 
<p>良運法師 寂しさに 宿を立ち出でて ながむれば いつしも同じ 秋の夕暮れ</p> 	<p>能因法師 嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 龍田の川の 錦なりけり</p> 	<p>藤原義孝 君かため惜し からざりし 命さへ 永くもがな 思ひけるかな</p> 	<p>源俊賴朝臣 憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ はげしかれとは 祈りぬものを</p> 	<p>清少納言 夜をこめて 鳥の空音は はかるとも 世に逢坂の 関は許さじ</p> 	<p>法性寺入道前 関白太政大臣 和原の 滞き出でて 見れば 久方の 雲ぬにまがふ 沖つ白波</p> 	<p>後京極摂政 前太政大臣 きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに 衣かたしき 独りかも寝む</p> 
<p>いにしへの ならのみやにの やへんぐら けふ 二のへに にほひぬるかな</p> 	<p>柿本人麿 足曳の 山鳥の尾の 長々し夜を 独りかも寝む</p> 	<p>僧正遍昭 天つ風 雲の通ひ路 吹きてさや そとめの姿 してはてことめむ</p> 	<p>順徳院 百敷や 古き軒端の しのぶにも なほあまりある 昔なりけり</p> 	<p>中納言家持 鶺鴒の 渡せる橋に 白きを見れば 夜を更けにける</p> 	<p>河原左大臣 陸奥の 信天 ちぢり 誰故に 乱れそめにし 我なりなほに</p> 	<p>紫式部 巡り逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲かくれにし 夜半の月かな</p> 

このひめく
いにしへの
ならのみやにの
やへんぐら
けふ 二のへに
にほひぬるかな